

水田をフル活用した作付体系の推進

高島農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

上安曇地区は 8 集落に跨る圃場整備事業を契機に現在の 20 人以上の耕作者を圃場整備後 10 経営体の担い手に農地を集積・集約する地域計画(目標地図)を策定しています。

現在の上安曇地区は水稻単作経営が中心ですが、圃場整備後は水田をフル活用した収益性の高い水田経営を目指しています。そこで、今年度は今後の担い手として圃場整備事業を契機に新たに立ち上げられた集落営農法人「上安曇 81 営農組合」をモデル経営体として、水稻-麦-高収益作物による作付体系の導入を支援しました。

【普及活動の内容】

(1)高収益作物を導入した経営計画づくり

圃場整備後の経営を具体化するために、水稻-小麦-大豆の収支を試算し、さらに、高収益作物としてタマネギやブロッコリーを導入した場合などの経営収支計画を立てました。このような計画をもとに収益性や営農組合の所有機械、出役労力を検討し、小麦とブロッコリーの栽培に取り組むことを営農組合で決定しました。

(2)小麦「びわほなみ」とブロッコリー栽培の取組

営農組合は麦を初めて栽培するため、排水対策を重点とした栽培研修会や播種作業の実演会、生育に応じた追肥判断のための現地研修会等を開催し、組合員の技術習得を図りました。

2 年目となるブロッコリーでは自家育苗の取組支援から野菜移植機の実演や防除研修、収穫・出荷研修を実施し、技術向上を図りました。また、収穫作業には女性の出役をすすめ、組合活動への参画を促しました。



写真1 小麦の播種作業実演



写真2 ブロッコリーの定植研修

【普及活動の成果】

営農組合では経営収支計画をもとに小麦とブロッコリーの導入を決定し、作業計画を立て、組合員の出役体制を作ることができました。また、このような営農組合の取組をモデルにして上安曇の担い手に情報発信し、来年度に向けて推進しました。今後は上安曇地区の担い手が水田フル活用した収益性の高い水田経営を営めるよう支援していきます。

◎対象者の意見

小麦、ブロッコリーとも栽培することがなかったが、研修会や実演会などを実施してもらい、栽培することができた。今後は上安曇の担い手とも連携して取組面積を拡大していきたい。
(上安曇 81 営農組合理事)